

第4次札幌市みどりの基本計画 市民グリーンフォーラム 開催結果

1 開催目的

これまで札幌市では、市街地を取り巻くみどりの保全や創出、良好な住環境形成のための量的なみどりの整備を進めてきた。これからは、守られてきたみどりを大切にしながら、みどりとオープンスペースが持つ様々な役割を活かし、みどりの質を高めていくことで、札幌の魅力をさらに向上させていくことが求められている。

これを受け、第4次札幌市みどりに基本計画中間答申では、今後10年間におけるみどりづくりの中で重視すべき視点として、「都市の魅力を高める」「地域コミュニティの醸成」「人と自然の共生」「資源の有効活用」を掲げている。

本フォーラムは、中間答申を広く市民に周知してご意見をいただくとともに、今後、札幌のみどりをどのように活かして都市の魅力を高めていくかを考える機会として開催した。

2 開催概要

名称：第4次札幌市みどりの基本計画 市民グリーンフォーラム
～これからの札幌のみどりを考える～

開催日時：2019年4月20日（土）10：00～16：00

会場：札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場（西）

対象：市民

内容：①パネル展示

第4次札幌市みどりの基本計画中間答申についての概要、検討の経過や今後の予定などについて札幌の魅力のみどり写真を交えての紹介

②グリーンカフェ

第4次札幌市みどりの基本計画中間答申について、市民の皆さんにご意見を伺う

③トークセッション

「札幌都心の魅力向上にむけたみどりのつくり方・活かし方・高め方」

登壇者：菊池 佐智子 氏（公益財団法人都市緑化機構 研究部 副主任研究員）

駒井 厚生 氏（エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 開発本部 副本部長）

小篠 隆生 氏（北海道大学大学院工学研究院 准教授 / 札幌市緑の審議会委員）

内川 亜紀 氏（札幌駅前通まちづくり株式会社 経営・企画課 営業管理 G 統括マネージャー）

コーディネーター：愛甲 哲也 氏（北海道大学大学院農学研究院 准教授 / 札幌市緑の審議会会長）

主催：札幌市建設局みどりの推進部



3 開催結果

(1) プログラム

時間	内容	
10:00	展示開始	・パネル展示、グリーンカフェ開始
13:30	トークセッション開会	・開会のあいさつ
	中間答申のポイント紹介	・第4次札幌市みどりの基本計画中間答申のポイント紹介
13:35 ～ 15:10 (95分)	トークセッション	テーマ：「札幌都心の魅力向上に向けたみどりの作り方・活かし方・高め方」 【コーディネーター】 愛甲 哲也 氏（北海道大学大学院農学研究院 准教授 / 札幌市緑の審議会会長） 【登壇者】 菊池 佐智子 氏（公益財団法人都市緑化機構 企画調査部 副主任研究員） 駒井 厚生 氏（エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 開発本部 副本部長） 小篠 隆生 氏（北海道大学大学院工学研究院 准教授 / 札幌市緑の審議会委員） 内川 亜紀 氏（札幌駅前通まちづくり株式会社）
15:10	トークセッション閉会	・閉会のあいさつ（司会より） ・アンケート
16:00	展示終了	・パネル展示、グリーンカフェ終了

(2) 来場者数（10～16時）

内容	人数
パネル閲覧	130人
グリーンカフェ	110人
トークセッション	190人
内訳 着席	60人
立ち止まり	130人
アンケート	117人



(3) 各プログラムの開催結果

①パネル展示

札幌のみどりや中間答申案について紹介するパネルを掲示し、道行く人に、札幌のみどりの魅力を知ってもらうとともに、みどりの基本計画の趣旨および中間答申案のポイントを、広く周知した。

■第4次札幌市みどりの基本計画について：13枚

■公益財団法人都市緑化機構様：5枚

■NTT都市開発株式会社様：5枚



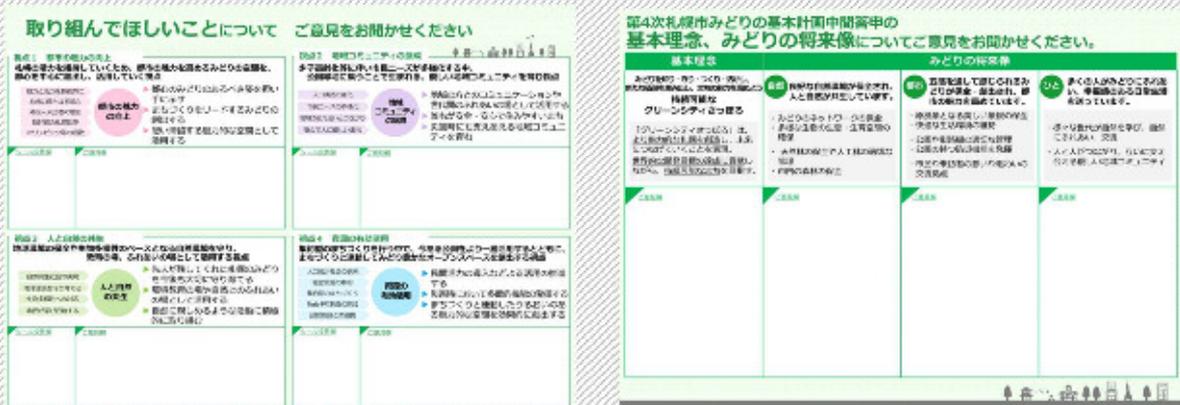
②グリーンカフェ

みどりの基本計画・中間答申案を広く知っていただくとともに、「基本理念」「みどりの将来像」に対する意見、「4つの重視すべき視点」をとっかかりとした取り組んでほしいことについて、市民目線での意見をいただくスペースとして設置した。

当日は、直接市民と対話しご理解いただいた上で、「4つの重視すべき視点」のうち共感するものへのシール投票を行い、ご意見を頂いた。



当日のグリーンカフェの様子



シール投票パネルとご意見募集パネル

<グリーンカフェでのご意見の概要>

○「第4次札幌市みどりの基本計画中間答申 第3章 重視すべき視点」についてのご意見

[視点1 都市の魅力の向上（得票数：19）]

- 街中のみどりの増やしてほしい
 - ・街路樹や植え込み、花などのみどりが少ない。
 - ・みどりが増えることで、憩いの場や観光客のおもてなしにつながる。
- 市民や企業との連携による維持管理をしてほしい
 - ・市民一人ひとりがみどりづくりの活動をして、おもてなしできるまちにする
 - ・維持管理なども企業と連携し取り組む。

視点2 地域コミュニティの醸成（得票数：17）

- 地域コミュニティの醸成に向けたみどりの活用があるとよい
 - ・駅前や公園などの花植えを通じて地域コミュニティが形成されるとよい。
 - ・高齢者がもっと活動できるようになるとよい
 - ・ボランティアは自由にやりたいが、リーダーが必要である。
- みどりを介した地域コミュニティを育む場がほしい
 - ・冬含めて人が集まれる場があるとよい。
 - ・公園を中心にコミュニティづくりを進める。

視点3 人と自然の共生（得票数：17）

- 長期的な視点での取組をしてほしい
 - ・先人たちが残してくれたみどりを、これからの子どもたちのために大切に守り続ける。
 - ・長期的に人とみどりが関わるという視点が大切。
- 人と自然の共生に向けた環境教育などの意識の醸成をしてほしい
 - ・自然を守ったり、大切にすることを意識の醸成が必要。
 - ・教育の場としてみどりを活用したい。
 - ・様々な人にみどりづくりに関わってもらおう。

視点4 資源の有効活用（得票数：17）

- 公園や樹木など既存のみどりの活用した魅力向上に取り組んでほしい
 - ・公園はたくさんあるが、活かしきれていないので、身近で皆に愛される公園を目指す。
 - ・カフェの設置など公園を有効に使えるような取組があると良い。
 - ・樹木によって、歴史的建造物や観光スポットなどを、より魅力ある場にする。
 - ・みどりの資源を燃料や草花の緑化に活用する。
- 防災機能のあるみどりがあるとよい
 - ・中央区には、災害時に逃げる場がなく不安である。
 - ・街路樹が育ちすぎないように管理する必要がある。



○「第4次札幌市みどりの基本計画中間答申」の基本理念、みどりの将来像について

[基本理念]

概ね同意を得られた。

- ・違和感ない
- ・SDGsに取り組んでいてよい。
- ・わかりやすい
- ・目標をどう設定するかが不明。
- ・よく分からなかった。
- ・グリーンシティさっぽろという名称は、未来らしい名ではあるが、みどり豊かな感じの名前ではないような。
- ・「みどり豊かで明るい町」「みどりの国さっぽろ」
→誰でも明るく過ごせるまちを目指す。

[将来像]

それぞれの将来像について、概ね同意を得られた。

- ・ひととの繋がりが大切だ。
- ・暮らして楽しい、みどりあふれるまち。
- ・公園にゴミを捨てる人を教育していかないといけない。
- ・子どもたちに地球環境保全についての教育をしてほしい。

○「第4次札幌市みどりの基本計画中間答申」全体について

[具体的な取組のイメージなどのご意見]

■自然

- ・豊平川沿いは雪堆積上のため空いている時期が短く、親しめない。
- ・植える種類のバランスを考えてほしい。(サクラなど)
- ・公園の緑化に力を入れてはどうか。樹木のための箇所が多い。
- ・生物が活発な公園が増えると良い。
- ・カラスが多いのは仕方ないが、みどりが害されてる感じ。駆除して欲しい。
- ・ポタニカルアートが良いと思う。花の名前がわからないので、名札をつけてほしい。

■都市

- ・避難場所になるような緑地があると良い。
- ・手入れしてる人がいてキレイな町になっている。



③ トークセッション

「札幌都心の魅力向上にむけたみどりのつくり方・活かし方・高め方」をテーマに、有識者、実践者、コーディネーターの5名によるトークセッションを行い、これからの札幌都心部のみどりのあり方を考える場とした。



<中間答申のポイントについて>

○札幌市建設局みどりの推進部 仁宮課長

■現在札幌市で策定中の第4次札幌市緑の基本計画中間答申について紹介

■計画改定の目的

社会情勢の変化や多様な市民ニーズを踏まえて、これからのまちづくりに対応したみどりづくりの総合的な指針として改定します。

■計画策定のスケジュール



■重視すべき視点

環境問題の深刻化
人口減少の到来
少子高齢化の進行, etc

今後10年間にわたりみどりの分野で取り組みを進めるうえで重視すべき視点を4つ設定

- 都市の魅力の向上
- 地域のコミュニティの醸成
- 人と自然の共生
- 災害の有効活用

■基本理念

みどりを知り・守り・つくり・活かし、新たな価値を生み出し、まちの魅力を高めよう
持続可能なグリーンシティさっぽろ

■みどりの将来像

五感を通して感じられるみどりが保全・創出され、都市の魅力を高めています。



■みどりの将来像

良好な自然環境が保全され、人と自然が共生しています。



■みどりの将来像

多くの人がみどりにふれあい、幸福感のある日常生活を送っています。



■「都心のみどりづくり」の現状と課題について、紹介。

■都心のみどりづくりの方向性

- 民間開発において市街、観光客が思い交し薄くなる緑化を誘導していくため、統一感や連続性に配慮した都心のみどりのあるべき姿を示したい
- 公共施設のみどりづくりを進め、まちづくりをリードするみどりを創出していきたい

第4次みどりの基本計画で「都心のみどりづくり方針」を検討しています

■都心のみどりの現状

- 緑地率→都心部：12.39%、市街化区域：17.6%
- 大連公園や植物園など公共的な緑化施設に頼る
- 公共・民間建設とも緑化不足と懸念する市民約50%



○北海道大学大学院工学研究院 小篠氏

■パブリックスペースを都心の中にどう作り出していくか



- 昭和 30 年代の札幌駅前通りの街並みは、当時ルールはなかったが、1 階部分とそれ以外でデザインが異なるように作られる暗黙知が存在していた。
- 一階部分が賑わいを生む、大事な部分であるということ、当時の地権者などが、知っていたと思われる。
- 三菱 JP ビルは、隣接したアカブラとのデザイン調整により、一体的な空間として整備されている。



- 以前の駅前通には、1、2 階部分に連続性、統一性があった。
- 1、2 階部分が賑わいを生む重要な部分となる。
- 民間施設と一体的な空間としてのオープンスペース整備が重要。

■新しい価値というのをどうやってその場所に埋め込んでいくのか、事例の紹介



- カリフォルニア大学デービス校では、川沿いの土地を植物園として整備・管理している。
- その植物園は、外との境界がなく、誰でも何処からでも入ることができる、パブリックなスペースとなっている。



- ニューヨークのハイラインは、使用されなくなった高架橋を、公園としてよみがえらせた場所。
- 隣接したビルでは、高架橋の高さでオープンカフェを展開している。



- ポートランドでは、私有地と公有地の境界のルールが設けられており、歩道上空の一部事業者が使用することができる。
- また、倉庫の跡地利用においても、緑化が進み、オープンカフェの設置などがされている。

- 大学私有地や高架廃線跡、民有地・公有地の境界部分などを活用したパブリックスペースが創出されている事例。
- これらのパブリックスペースでは、周辺エリアも含めて賑わいが創出されている。

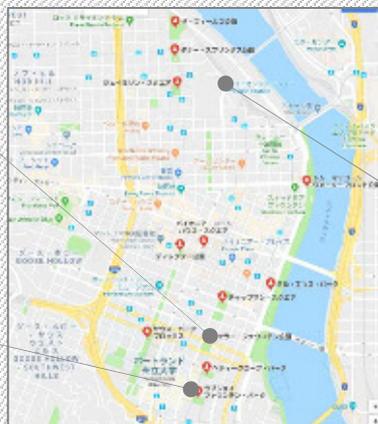
■土地の中に埋め込まれた場所、居場所がどのように展開しているか



アイラ・ケラーファウンテンパーク



ラブジョイファウンテン



ジェイミソン
スクエア

- ポートランドでは、特色のある公園が都市内に非常に点在している。
- 水路や滝などが設置されており、都会の喧騒を消し、子どもの遊び場や大人の安らぎの場となっている。

- ポートランドやニューヨークでは、都市の中にみどりのオープンスペースを点在させ、さまざまな活用される空間を、多世代に提供している。

■札幌都心における「きっかけ」の可能性



- 六花亭札幌本店では、ビルの裏側、中通り沿いにみどりのスペースをつくっており、店内から眺めることができる。



- 駅前通りのビルでは、敷地に合わせて角が斜めになっている。また、1階部分と上で、デザインを分けている。
- 大同生命ビルには、2階と同じくらいの高さに木が植わっていた。民間側も、駅前通りの街路樹などのみどりと、関連付けを考えていた可能性がある。

- 表通りだけでなく、中通りにもみどりを展開することができる。
- 札幌市においても、行政だけでなく、事業者や利用者と一緒にみどりの質の向上に取り組んでいく必要がある。

○公益財団法人都市緑化機構 菊池氏

はじめに
1 公益財団法人 都市緑化機構

2 みどりのまちづくりと緑
都市の緑3表彰

3 みどりの緑葉
緑の認定: SEGES(シージェス)

4 “みどりのお”を盛げるために
まとめ

みどり豊かなまちづくりに関する「実績」「計画」「技術」の優れた取り組みを表彰する

「実績」 緑の都市賞
「計画」 緑の環境7年大賞
「技術」 屋上・壁面緑化技術コンクール

緑の都市賞
都市の緑の保全・創出に取り組む市民、企業、行政等の活動の『実績』を顕彰し、内閣総理大臣賞を授与
札幌市関係の受賞歴
第2回(1982年)
建設大臣賞 公共部門: 札幌市
第22回(2002年)
審査委員長賞 地域緑化部門: モエレまちづくり委員会
第30回(2010年)
奨励賞 緑の拠点づくり部門: リッポロビール新札幌工場

第38回(2018年) 都市緑化機構会長賞
緑の事業活動部門:
大塚ステーションシティ(大阪府大阪市)
※SEGES「都市のオアシス」認定(2015年~)

・大阪ステーションシティでは、屋上だけでなく、屋内にも多くみどりを設置し、屋上に行かなくてもみどりを楽しめる工夫がなされている。

第17回 環境大臣賞・壁面・特殊緑化部門
福德神社・福德の森

・福德神社・福德の森では、人工地盤上を緑化することで、人々に安らぎを与えている。

屋上・壁面緑化技術コンクール
屋上や壁面などの特殊空間における優れた緑化『技術』を顕彰し、国土交通大臣賞、環境大臣賞を授与
これまで、国内外187作品(海外2、韓国・シンガポール)を表彰

その他の受賞例
(左) 国土交通大臣賞(屋上緑化部門)
: GINZA SIX
(右) 国土交通大臣賞(壁面・特殊緑化部門)
: 新山口駅「垂直の庭」

グローバルゲート 豊洲フォレシア壁面緑化

(左) 都市緑化機構会長賞
: 屋上緑化部門グローバルゲート
(右) 国土交通大臣賞
: 豊洲フォレシア壁面緑化

はじめに

- 1 公益財団法人 都市緑化機構
- 2 みどりのまちづくりと
都市の緑3表彰
- 3 みどりの未来
緑の認定: SEGES(シージェス)
- 4 “みどりのお”をさげるために
まとめ

SEGES(シージェス)
社会・環境貢献緑地評価システム
Social Environment's Green Evaluation System
社会・環境に貢献する企業緑地の取り組みを総合的に評価、認定する制度



もだてる緑 (2016年 2017年) 事業者が所有する 快適で安全な都市 緑地(300㎡以上) 緑地を提供する限り 緑化面積(計画の履きか換金、削減)を認定
都市のオアシス (2016年 2017年) 緑地(300㎡以上) 緑地を提供する限り 緑化面積(計画の履きか換金、削減)を認定
つくる緑 (2016年 2017年) 緑地(300㎡以上) 緑地を提供する限り 緑化面積(計画の履きか換金、削減)を認定



• 西武池袋本店屋上の食と緑の空中では、四季折々の花が楽しめる庭を整備し、多くの来訪者がある。

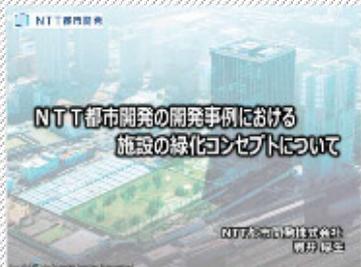


• 昭島昭和の森では、アウトドアに特化した商業施設と緑地を整備し、みどりの中でスポーツを楽しむことができる。



• GINZA SIX ガーデンでは、芝生と水盤の二つの顔をもつ屋上緑化を整備した。木陰があるので多くの方がお昼を食べたりしている。

- ➔
- 屋上などを緑化し、立ち入ることのできる癒しや安らぎの場などを提供することで、商業施設としての盛り上がりにつながっている。
 - 都市の緑3表彰では、みどり豊かなまちづくりに関する「実績」「計画」「技術」の優れた取り組みを表彰している。SEGESでは、社会・環境に貢献する企業緑地の取組を総合的に評価、認定している。
 - 表彰制度によって、企業が取り組みやすくなるとともに、動機付けにつながっている。



■事例の紹介



- 品川シーズンテラスは、下水処理場敷地にオフィスビルや公園を設置し、高利活用を図った。
- 日常的に、オフィスワーカーの昼食の場や、子どもの遊び場として活用。また、様々なイベントを開催し、2017年度はこの公園だけで15万人ほどを集客している。



- 大手門ファーストスクエアは、約25年前に整備された施設をリノベーションし、みどりに人々が自然と集まり、くつろげる空間を整備。
- 夜はシネマイイベントも開催し、賑わいを生んでいる。



- 都立公園に隣接した低利用地を、まちに開かれた空間に整備。都立公園との境界のフェンスを取り除くことで自由行き来できる。
- 企業相手に場所を提供してイベントを開催し、その収益で維持管理しており、稼ぐパークマネジメントの実践をしている。



- 品川シーズンテラスや大手町ファーストスクエアなどでは、日常的な憩いや遊びの場となるだけでなく、イベント開催などのにぎわいを創出する活用を行っている。
- イベントなどの収益をもとに、維持管理を行う稼ぐパークマネジメントを実践している。

■開発手法・プロセスについて



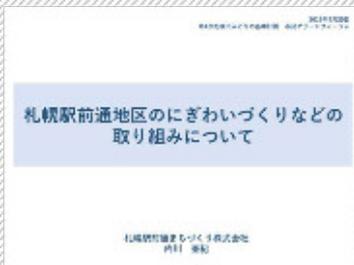
- これまでは、開発者と将来的な管理会社などで検討する課題解決型であったが、ビルユーザーだけでなく地域住民や近隣ビルなど、様々な方とワークショップ等を実施しながら、ビジョンの共有化を図り計画に織り込む、目標達成型へ移行している。
- これからの開発では、コミュニティ・ダイバーシティ・リノベーション・レジリエンスという4つのキーワードに焦点を当てていく必要がある。



- ビルオーナーや、テナント、地域住民、近隣ビルなど、様々な立場の人によるワークショップで、ビジョンの構築・共有を図り、計画をつくることが重要。



■公共空間（アカプラ・駅前通）での取組について



- 街路樹やプランターの設置などにより、市民の憩いの場となっているほか、様々なイベントやCSR活動の場となっている。
- 地区の活気を高めるイベントを、地域と一緒に作り上げている。広場の利用料を、除雪や清掃に充てている。

➔ まちなかのオープンスペースを活用し、季節に合わせた活用、賑わいづくりに、企業等と連携し取り組んでいる。



<ディスカッション>

愛甲氏のコーディネートによる「札幌都心の魅力向上にむけたみどりのつくり方・活かし方・高め方」をテーマにしたディスカッションを行った。

■多様な人が関わる中での円滑な進め方について

- ・小篠氏：連鎖的にやり続けるところから何かが生まれる。

ただ、札幌は東京と違い、まだ民間ベースというところまではいっていない。東京の事例では、ビル事業者、オーナー、テナントが「そういう事をやっているビルにオフィス構えたい」という思考に変わってきている。札幌は、まだ、ビルオーナーは、フ

ロア面積をたくさん取り、貸せばよいとなってしまっていると感じるが、この辺りのビルはずいぶん変わってきた。そして、入居率も高いと聞く。

事業をする方々が「皆さんに提供できるものをつくった方が、価値が高まる」と思ってくれれば、随分変わっていくのでは。その中で、「みどりの要素」は大いに必要だと思う。



- ・取組を続けることで、活動が活発になっていく。
- ・札幌都心においても、みどりによる価値づけが、民間事業者に意識されるとよい。

■民間事業者がパブリックスペースに関わる際のモチベーションについて

- ・駒井氏：もともとみどりはビルの付加価値を高めることが目的だったが、いまはオープンスペースそのものの価値が認められてきている。そのため単独のビルだけでなく、エリアマネジメントや周辺施設との協調など、エリアで考えていく必要がある。そのため、地域や周辺施設に考えていただくことで、うまく回ってきているのではないかと。



- ・これまでみどりは、付加価値のためであったが、今はオープンスペースそのものの価値が認められてきている。
- ・エリアマネジメント的な考えで、地域住民などと協調していく必要がある。



■企業など様々な人たちの協力による管理について

- 菊池氏：多くは造園業者が管理しているが、企業の担当者も一緒に見て回るうちに、自分ごとになり、造園業者よりも詳しくなったなどの事例がある。
- 内川氏：まちづくり株式会社自体が地域の皆さんと一緒につくったということもあり、少しずつ実績を積み上げている。転勤族の方が多いが、転勤する際も、後任の方へ引き継いでいただいていることで、まちづくりが脈々と続けられている。外部から来た人だからこそ気づける色々な価値があり、その価値をPRすることで、色々な方に参加していただいている。



- 自分ごととして捉えることが大事。
- 小さな取組の積み上げによって続けていくことが必要。

■札幌の都心のみどりづくりについて、ヒントやアドバイスについて

- 菊池氏：国土交通省の建物の魅力アップガイドであげられている、①ビジネス競争力の向上、②集客力の発揮、③企業や組織の評判の向上、④労働意欲・学習意欲・創造力への刺激、⑤特徴ある施設づくり、⑥ランニングコストの節約、⑦暮らしやすさ、居心地の良さがうまれるのポイント7点のどれかに着目して取り組むとよいと思う。
- 駒井氏：劇的な社会の変化の中では、特定の誰かのためのみどりは、すぐに陳腐化してしまう。そのため、誰でもそこで何かをできるようなみどりが、面をつなったり、点在したり、有機的につながるとよい。デベロッパーとしては、ビル内や地下空間なども利用し、創出していけるとよいと思う。
- 内川氏：潜在的にみどりに関わりたい人は実はいる。ビルと外を一体的に考えることを、自分ごとにして、自分ごとの積み重ねがまちに広がっていくとよいと思う。
- 小篠氏：駅前通りのビルは、チカホへの接続を自分たちで整備してきている。すべてにおいて奉仕では厳しいので、事業に対して利益になるような仕組みづくりが大事だと思う。
札幌都心で重要なのは中通り。中通りにはみどりがいないため、そこに壁面緑化などの小さなみどりがあると、魅力的なまちに生まれ変わるのではないかと思う。
- 愛甲氏：いろんな企業や開発者、行政、市民などがつながるということが大事。「つながる」ということは、現行のみどりの基本計画のキーワードでもある。
また、市民の活動というのは大事で、事業者さんの活動を表彰・認証することも、もちろん大事だが、そういった場所を市民・消費者が選ぶ訪れる事も大事。



4. 広報方法

- 札幌市 HP
- メーリングリスト

(公財) 日本造園学会 北海道支部
(公財) 日本都市計画学会 北海道支部
(一社) 日本建築学会 北海道支部 都市計画専門員会
(一社) 北海道造園緑化建設業協会
(一社) ランドスケープコンサルタンツ協会北海道支部
(一社) 公園管理運営士会北海道支部

- チラン配布

		配布先数	配布部数	小計
市の施設	市役所	1	100	100
	みどりの推進課	1	100	100
	区役所	10	30	300
	区民センター	10	30	300
	指定管理公園	23	30	690
	市民交流プラザ	1	0	0
	札幌市資料館	1	30	30
	豊平館	1	20	20
	旧永山邸	1	30	30
	駒岡保養センター	1	20	20
	エルプラザ情報センター	1	30	30
	ちえりあ	1	30	30
	教育文化会館	1	40	40
	定山溪自然の村	1	30	30
	札幌市北方自然教育園	1	30	30
	チカホ	1	100	100
	トオンカフェ	1	20	20
緑の審議会委員所属団体※1	15	30	450	
ガーデンアイランド北海道上映会	1	150	150	
市民ワークショップ参加者	22	1	22	
北大生(学生)	1	30	130	
当日配布	1	300	378	
		合計	3000	



